

2023年7月13日(木)

老球の細道740号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トステイン・ロイブル」⑩

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今年もまた虫捕りのシーズンがやってきた。シーズンオフ中は近くの田んぼにある用水池でドジョウやザリガニ捕りを孫と共に楽しんでいた。先日、セミの鳴き声が呼んでいるので、あいづ体育館運動公園に水陸両用の虫捕り網を持って出かけた。

セミを捕るために大木の上を眺めていたら外国人(夫が米国人、妻が日本人)夫婦に声をかけられた。魚を捕る網と勘違いされて「フィッシング?」。私は「NO!」と答えたのは良かったが、「セミ」の英単語がわからなかったので次が続かなかった。その後も知っているふりして「Where are You from?」と質問したが、マシンガンイングリッシュで応えてきたので「米国」しか聞き取れなかった。かつてトステイン氏と話していた頃を思い出した。

【2004年 3月28日午後・夜】

15時からケムニッツにある「Schlossteic ホール」でブンデスリーグのプレイオフゲームを観戦した。このゲームについては記録が残っておらず、私の記憶も定かではないので省略する。ゲームより練習見学、クリニックを重視していたので忘れてしまったのだろう。

夕食が感動だった。トステイン氏のお父さんの招待で、千利休の茶室4つ分くらいの大きさと風情のあるお父さんの別荘でバーベキュー夕食会になった。ドイツと言えばソーセージとビール。ビール命の私にとっては至福のひと時となった。また、生まれて初めて「アイスワイン」という極上のワインもご馳走になった。あまりにも美味しかったので、日本に帰って来てもしばらく飲み続けた。値段が少し高価なので、今は自粛している。

トステインファミリーの誠実で温かい人柄に日本から行った5人は皆感動して、多めに食べ、多めに飲んでツアー2日目の夜を終えた。

【2004年 3月29日 午前】

旧東ドイツにはスポーツ大国を目指すために、五輪でメダルを取れるスポーツエリート養成する学校を国内のあちこちに作った。ここケムニッツにもあり、スケートのカタリーナ・ビットもここで育った。東西ドイツの統一後もエリートスクールは残っていた。

午前中はケムニッツ・スポーツエリートスクールの授業を見学した。高校1年生の「スポーツ講座」である。オールコートツーメンパスのコーデイナーションドリルのウォーミングアップからスタート。パスのファンダメンタルドリルの練習後、本日のトピックである「プレスに対するボールダウン」のドリルが行われた。ドリブル1:1にパスの繋ぎを加えたり、ダブルチームに対する対応などを真剣に練習していた。授業と言えども、ドリルにはパスの回数、ドリブルの回数などに必ず縛り(ルール)があり、練習のねらいを強調して強く意識させていた。

この時に指導していたコーチ「Jens Kunze」は、その後トステイン氏と一緒に会津へ来て、会津から参加したコーチ達と懐かしい再会を果たした。

〈続く〉